

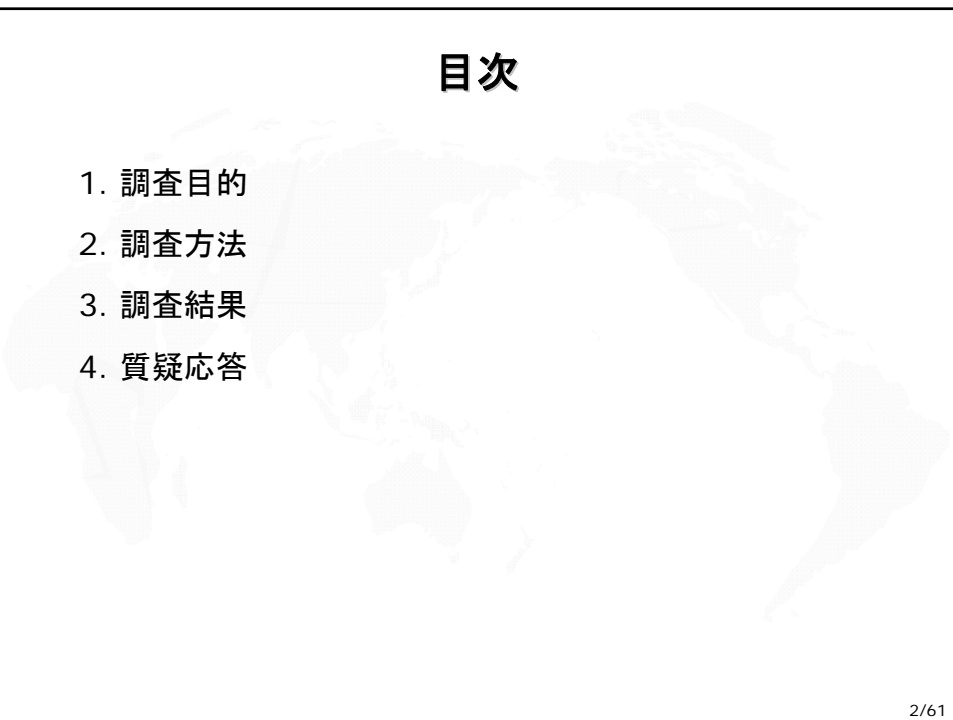
# 平成20年度調査事業 「食品中に含まれる ヒ素の食品影響評価に関する調査」 調査報告

財団法人国際医学情報センター



1/61

## 目次

- 
1. 調査目的
  2. 調査方法
  3. 調査結果
  4. 質疑応答

2/61

## 調査目的

ヒ素の食品健康影響評価(以下「リスク評価」とする)に必要な情報の収集と整理、そして内容の分析を行うことを目的とする。

3/61

## 調査方法

1. 検討会の設置と方針の決定
2. 文献収集
  - ・平成16年度と18年度の調査で収集された文献
  - ・国際評価機関等の評価書中に引用されている文献
  - ・商用データベースからの文献収集
3. 検討会での検討
4. 情報の整理、報告書作成

4/61

## 調査結果

### 1. 調査結果概要

報告書 調査の概要 p.1-5

### 2. 調査報告概要

報告書 調査報告 7.まとめ p.103-107

### 3. まとめ

5/61

## 調査結果

### 1. 調査結果概要

報告書 調査の概要 p.1-5

6/61

( 報告書p.3参照 )

## 調査結果

### 1. 検討会の設置と方針の決定

#### 検討会の設置

圓藤 吟史 (座長)	大阪市立大学大学院医学研究科教授
花岡 研一	水産大学校水産学研究科教授
安井 明美	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所食品分析研究領域長
山内 博	北里大学大学院医療系研究科教授
山中 健三	日本大学薬学部環境衛生学教授
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科教授

(五十音順 敬称略)

7/61

( 報告書p.3参照 )

## 調査結果

### 1. 検討会の設置と方針の決定

#### 調査項目

1. 一般情報 存在する化学形態、環境中の挙動
2. 国内の曝露状況 飲料水、海産物、農畜産物からのヒ素の検出状況、日本人の摂取量
3. 代謝(生体内運命) 無機ヒ素化合物および海産物由来のヒ素化合物の生体内運命
4. 疫学調査及び中毒事例
5. 毒性試験
6. 国際機関等の評価とその根拠
7. まとめ

8/61

(報告書p.3-4、138-144参照)

## 調査結果

### 2. 文献収集と情報の整理

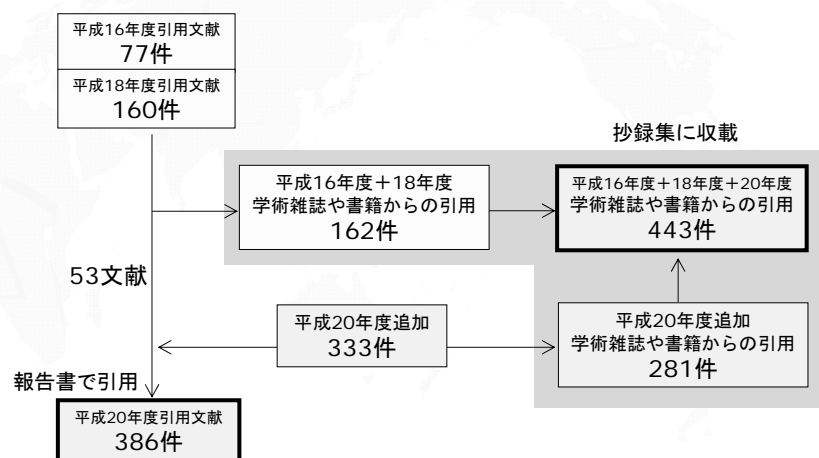
- ・平成16年度と18年度の調査で収集された文献
  - 平成16年度「食品に含まれる汚染物質等の健康影響評価に関する情報収集調査」
  - 平成18年度「ひじきに含まれるヒ素の評価基礎資料調査」
- ・国際評価機関等の評価書中に引用されている文献
  - 国際機関 世界保健機構(WHO)
    - 国際連合食糧農業機関(FAO)
    - コーデックス委員会(CAC)
    - FAO/WHO合同食品添加物専門委員会(JECFA)
    - 国際がん研究期間(IARC)
  - 欧州 欧州委員会(EC)、欧州食品安全機関(EFSA)
  - 米国 米国食品医薬品庁(FDA)、米国環境保護庁(EPA)、  
米国毒性物質疾病登録機関(ATSDR) 他
- ・商用データベースからの文献収集
  - 海外 MEDLINE、ToxFile、CA SEARCH
  - 国内 医学中央雑誌、JST(科学技術振興機構)

9/61

(報告書p.4-5参照)

## 調査結果

### 2. 文献収集と情報の整理



10/61